
白い童話

綿雲 斬玖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白い童話

【Nコード】

N1966E

【作者名】

綿雲 斬玖

【あらすじ】

主人公凜のお祖母ちゃんが倒れて落ち込む凜その時、川上から大きな桃が流れてきて——？桃太郎と少女と犬猿雉の冒険物語！

第1話 凜の悲劇

夏休み、凜は、お祖母ちゃんの家に来ていた

おばあちゃんの家の近くには山とか川があつて穏やかな風景だ。

凜は、そんなお祖母ちゃんの家が大好きだった。

いつもは両親と来ているのだが、凧が中学生になった今年は一人で電車で来ていた。

凧はお祖母ちゃんの家に着くと、様子がおかしかった。

いつも、お祖母ちゃんは、家の近くの丘でまっ

お祖母ちゃんは、来ていなかったのだ。

凜は、何となく嫌な予感がして、急いでおばあちゃんの家へ急いだ。

そして、凜の嫌な予感は当たっていたのだ。

「お祖母ちゃん!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

お祖母ちゃんは玄関で倒れていた。

「ど、どろっしょん……救急車……」

凧は、お祖母ちゃんの家に入り、電話を探した。

「い、いちいちきゅう……」

しばらくすると救急車がやって来た。

それを聞いた近所の伯母さんが走ってやってきた

「凜ちゃん、大丈夫だった!？」

「あ……はい……」

「あとは、おばちゃんに任せてね!」

「はい……」

凜は、1人ぼっちになってしまった。

（今日から一週間……どうしよう。）

正直、楽しみにしていたので、何もせずに帰りたくなかった。

「川にでも行って来ようかな……」

凜は、少し歩いたところにある川に向かった。

（誰も居ないや……いつもなら従兄弟のお姉ちゃんと遊んだのに……）

従兄弟のお姉ちゃんは、伯母さんと一緒に救急車に乗っていた。

（暇だなあ…戻ってよかった…）

宿題もしなきゃいけないし。と呟き、凜は、家に向かおうとした。

その時、凜は見た

（え―――）

どんぶらこ、どんぶらこ、と川上から流れてくる大きな桃を

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1966e/>

白い童話

2010年10月15日03時47分発行